

労働安全衛生マネジメントシステム

Management System

「安全をすべてに優先させる」という基本方針のもと

労働安全衛生マネジメントシステムを導入し、継続的・組織的な労働災害防止活動に取り組んでいます

昨年、重大公衆災害を発生させた4月14日を「安全の日」と定め

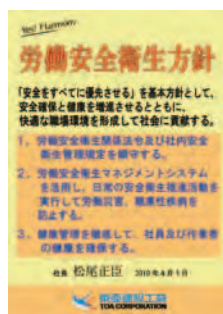
安全衛生活動の強化に努めています

労働安全衛生方針

建設業における労働災害は、長期的に減少傾向を続けています。しかし、今後さらにこの減少傾向を継続していくためには、自主的かつ組織的な安全衛生管理の推進が不可欠です。

当社は4つの安全衛生目標（公衆災害ゼロ、重大災害ゼロ、災害度数率0.6以下、職業性疾病ゼロ）を掲げ、危険・有害要因を排除するためリスクアセスメントを計画から施工段階に至るまで確実に実施し、労働安全衛生マネジメントシステムを効果的に運用して継続的・組織的に労働災害防止活動に取り組んでいます。

今年度、TOHSMSをより確実に実施、運用するために、OHSAS18001（2007年版）を全社（国際事業部は除く）に導入し、マネジメントシステムの再構築を行なって外部認証の取得をめざしています。

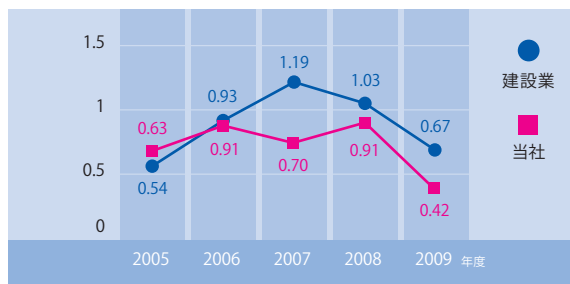


災害度数率目標の継続達成をめざして

当社は、中長期安全衛生管理計画（2008年度～2012年度）において災害度数率目標（休業4日以上対象）を0.60以下と定め災害防止活動に取り組んでいます。

過去5カ年の災害度数率の推移を見ると、2005年度から2008年度までは残念ながら目標を達成できませんでしたが、2009年度は災害度数率0.42となり目標を達成しました。今年度も、目標値0.60以下の達成に向けさらなる努力を続けます。

労働災害度数率（過去5カ年実績値）



※労働災害度数率：延実労働時間当りの労働災害による死傷者数の比率。
この値が小さいほど、労働安全が保たれていることを示しています。

「安全の日」を制定

2009年4月14日、当社は、建築工事現場におけるアースドリル機転倒事故により、5名の死傷者（うち死亡1名）を出す重大な公衆災害を発生させてしまいました。

この反省と教訓を心に刻み、「二度とこうした事故を繰り返さない」との強い決意のもと、事故の記憶を風化させないために、4月14日を「安全の日」と決めました。

当日は、役職員一同が、事故の発生した午前11時5分にあわせて、各職場で「忘れまじ4.14」の宣言のもと黙祷を捧げました。



安全の誓い

～「安全の日」制定に際して～

昨年4月14日、当社は、東京都千代田区の建築工事現場におけるアースドリル機転倒事故により、1名の方が尊いお命を亡くされ、4名の方が重軽傷を負われるという重大な公衆災害を発生させてしまいました。

私たち役職員一同は、被災者やご遺族の悲しみや悔しさを決して忘れることなく、「二度とこうした事故を繰り返さない」との強い決意のもと、すべての安全活動を着実に遂行し続けていかなければなりません。

この度、事故の記憶を風化させないために、4月14日を「安全の日」と決めました。

役職員一同が、事故が発生した時刻 午前11時5分にあわせて、各職場で「忘れまじ4.14」の宣言のもと黙祷を捧げます。

「安全の日」制定にあたり、「安全をすべてに優先させる」を深く心に刻み、信頼回復に向けて全力を尽くすことをここに誓います。

平成22年4月6日

東亜建設工業株式会社
代表取締役社長 松尾 正臣

「安全衛生・環境教育」活動

安全衛生・環境管理活動を強化し、組織的なリスクアセスメントによるリスク低減活動を推進するため、社員の階層別安全衛生・環境教育を継続して実施しています。

